

よなごびと

| 第92回 |

怪談師

かんばら
神原 リカ さん



昔から伝わる怪奇な話を

伝えていきたい

米子市の文化振興に貢献し、今後の活躍が期待されるとして、昨年度の市文化奨励賞を受賞した神原さん。怖い話や不思議な話を語り聞かせる「怪談師」として、14年にわたり活動を続けています。平日は事務員として勤務しながら、土日や夏休み期間を中心に各地のイベントへ出演しています。

神原さんが怪談に興味を持ったきっかけは、幼い頃に祖母がよく聞かせてくれた怖い話。「その影響で怖い話が大好きに。10歳頃から小泉八雲を読んできました」と振り返ります。活動を始めた当初は、思うように話せず悔しさを感じることもあったそうで、「時間やお金をかけて来てくださるお客さんに失礼の

ないようにしたい」と、表現力を高めるため朗読レッスンに通い、技術を磨いてきました。その努力は実を結び、6年前には怪談コンテストの全国大会「怪談最恐戦」でファイナリストに選ばれました。

「今は怪談ブームで配信も人気ですが、場の空気感も怪談の魅力の一つ。お客さんの反応を感じながら、一緒にその場を楽しみたいです。帰ってから、ふとした時に思い出して怖いと感じてもらえたら」とほほ笑みます。神原さんが披露する怪談は、実際に体験した人から聞いた話をもとにした現代怪談や、古典や民話を中心です。「今後は、この地域に昔から伝わる怪奇な話を、子どもたちにも伝えていきたい」と語ります。



神原さんのトレードマーク、狐のお面。祖母から聞いた狐の話が怪談師の原点



寺を会場にした「米子怪談」公演では昔から伝わる山陰の怪談を披露した

提供 米子市公会堂